

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：田原
広報部：石渡・広畑・河原
仲田・山本・朝日
園田・高尾・加茂
事務局：奥田・岡崎

インテリア設計士・証書伝達式

はじける若さ
交流会盛大に
No.81

叶知利書



パネルディスカッションでアピール



司会の青年部・瀬部部長



パネラー（左から朝日・山田・加茂）

9月26日、平成21年度、第48回インテリア設計士資格検定試験合格・登録者への証書伝達式が南港ATCにある大阪デザイン振興プラザの交流サロン行われました。

私は、自分が証書をいただいて以来5年ぶりで、理事として初めての参加でした。今年の合格者は、54人もいたにもかかわらず、伝達式の参加者は想像以上に少なくびっくりしましたが、その分、新会員一人一人の顔をしっかりと確認できました。

今回はパネルディスカッションが企画されており、瀬部青年部長が司会を、パネラーは朝日、加茂、山田の3理事が務め、各自がインテリア設計士の資格を活用しながら活躍している話、今の仕事の内容、インテリア設計士の資格を取るきっかけ、仕事で大切にしていることなどの話を展開されました。これらの話は、今回参加の新会員のみならず、私もとても興味深いところでもありましたので、しっかりと聞きました。パネラーの方々は、普段はとても気さ

くに話あっていますが、今回のこのような機会に改まった話を聞くことができたのは、本当に貴重なことでした。

私が取得した時、正直、マイナーな資格だと思ひ多少の不安を抱いていたのですが、この資格を持って第一線で活躍されている方が多く、会合等でたくさんの方の刺激と知識をいただいております。今回のパネルディスカッションで、その不安は完全に払拭することができました。

ぜひ、今年資格を取られた方も、以前から資格を持っておられる方もOISを活用していただきたいと思った、そんな伝達式でした。（記・栗山 保幸）



交流会のひとつ

見学記

千里聖三一教会



笑顔で語る森牧師



参加の皆さんと、西日を受けて輝くガラスの十字架

10月25日(日)、大阪は吹田市北部の丘陵地域に位置する『千里聖三一教会』建物見学会に参加しました。森OIS理事の父、森大(だい)氏が牧師を務められているキリスト教会です。

昨春完成したこの教会は、木造(在来軸組み工法)でありながら最大約9メートルの長距離スパン(柱から柱の間隔)構造形式で設計された希少性の高い建物です。これは教会としての礼拝室大空間を実現化させるための重要ポイントです。

お茶、お菓子、フルーツの、お持て成しを受けながら、森牧師から、宮後OIS会長が描いた完成予想パースから始まった計画段階での思い出、そして完成に至るまでの貴重なお話しが聞けました。家具類を製作された木工師の岡田勝之氏

と建物本体の特殊構造設計を担当された田原賢氏からも説明を受け、一同熱心に耳を傾けました。大いに勉強になったことは言うまでもありません。

見学会終了後、近くの料理屋へ参加者全員が集結。おいしい料理とお酒、みんなでワイワイ、ガヤガヤと、これまた楽しく有意義なひと時を過ごしました。

見学会では森牧師をはじめ教会の方々に、お世話、お気づかいいただきましたことを、心から感謝申し上げます。（記・朝日 勝彦）



熱心に家具の説明を聞く岡田氏



大阪は歴史が長く、土地柄、人柄にも恵まれ、見る所も多く、地元におりながらまだまだ知らないところが沢山あります。行く先々で目から鱗で感心し、地元民として勉強の必要性も感じてしまいます。

そのような大阪もさることながら、私のお気に入り大阪観光スポットはUSJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)です。地元だから、逆に未体験という人も多いと聞きますので、少しだけ紹介させていただきます。

映画を模したイベントを催す建物の間にアメリカの古い町並みがあり、緑地があり、池があり・・・意外にゆっくりのんびりできます。TDL(東京ディズニーランド)のように完全な夢の世界でなく、大阪臭さが見え隠れするのも面白いところです。TDLも同じですが、コンパクトな空間に色々なインテリア要素をふんだんに盛り込みながら、違和感を感じさせず、いかにもそれらしい

風景に仕立て上げています。観客も嘘の空間と承知しながら納得し、楽しんでます。ハロウィーンやクリスマスは一層生き生きとして華やかで、輸入遊園地の醍醐味が味わえます？！

私は年間パスポートを持っており、アトラクションも全て体験済みです。それでも飽きずに何度も行ってしまい、ただ散歩しています。それは、USJが魅力的で楽しく、ゆったりと心地いいからだだと思います。未体験の方、いろいろな楽しみ方が見つかりますと思いますので、行ってみてください。



記事募集のお知らせ

あなたの「お気に入りの観光地」を教えてください。応募要領は次のとおりです。

- 文字数=500字程度●写真2~3枚●国内・外を問いません●原稿は郵送・メール・FAXで事務局まで(FAXの場合、写真は郵送してください) ◆採用させていただきました方には記念品を贈呈いたします。

ECO ART

立体エコアートづくりに参加して...



黙々と制作に励む

9月5日(土)、大正区にある「エーディーワールド(AD WORLD)大阪ショールーム」で、面白い体験をさせていただいた。

エーディーワールドとは、フローリング、階段部材、ウッドデッキなど、イタリアを中心としたヨーロッパからの輸入ブランド建材や、手作り工房ショップでの銘木テーブル、チェア、小物などを製造販売する会社だ。今回は、その中でも環境循環型供給システムから開発されたエコロジカルなオンライン素材(EW8)の製造過程で生まれる多くの木片を廃棄・焼却することなく、有効利用されるアートプロジェクトのメインである立体アートパネル作りに、数名でトライした！

ショールームのウッドアートギャラリーには、専門家が作った、シンプルで素敵な表現のパネルが飾られてあった。ロハスな素材は形状も様々ながら、その独特な渋めのイタリアンカラーの発色にかなり魅了された。

いざ作製段階になるや、想像力

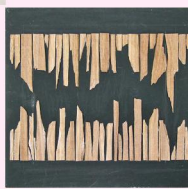
とセンスをフル回転しなければならぬ立体アートパネル作りに皆は真剣に、かつ個性豊かな物作りの世界に引き込まれていった。単純なものほど難しくセンスが問われる...とはこういうことなのか...と頭と手をひねらせ...ひねらせ...。各人2枚ずつ作製したが、かなり熱中していたらしく、3時間半は、あという間に経過した。

作製中にふと、「労働における創造価値の実現が困難な社会(現在)においては、余暇の過ごし方がいっそう重要になってくる」と言っていた心理学者のV. E. フランクルの言葉が頭をよぎった。このパネルづくりは、自分でも解らない創造価値があり実に面白かった。またトライしてみたい。

さて、奮闘の結果どんなものが出来上がったかは、ぜひ11月26日~28日に開催されるOISの「事遊展」でご覧いただきたい。お楽しみに...。(記・森 一芽)



作品の一例



私の“陶芸教室”初体験記

10月25日(日)、友人を誘って陶芸教室に参加しました。

行くずっと前から、「何を作ろうか...、何色にしようか...」と迷っていました。

実はOISの行事には初参加で、それも人生初の陶芸。

はらはらドキドキといったところでしょうか。

当日、楽しみと不安を抱えて丹波立杭“丹文窯”へ向かいました。

到着してすぐに粘土をもらいました。素手で触る粘土の気持良さに感動、ずっと触っていたい感触でした。

ところが作陶にかかってからは悪戦苦闘。思いどおりにならない形。すぐに取りれてしまう取っ手。コップ2つと大皿1枚。粘土を追加して仕上げた私の3つの作品と並ぶ他の方々の作品を見比べて、まだまだ未熟だなあと反省



粘土遊びを楽しむ矢野さん！



“のぼり窯”をバックに恒例の記念写真

したのはいうまでもありません。

その後はBBQ、おでんに焼き鳥、天ぷらにガーリックトースト、いろいろなものを用意してくださいました。どれも本当においしく、男性の料理に満足しました。

皆さんの中に入っているのか、とても不安でしたが、初めて参加した私にもいろいろと話しかけてくださる方が多く、いろいろなコトを教えていただきました。

名物・丹波黒豆のお土産を買って、陶芸とパーティーの一日を満喫して帰宅。それから毎日出来上がりを楽しみにしています。

皆さん、お世話になりました。ありがとうございます。来年も是非参加させていただきます！！

(記・矢野友佳子)



園田 寛明

デジタル技術の進化によるもの

近年デジタル作品とは、すごい速さで変化し、次々と生まれる技法により、日々進化を遂げています。それもまた時代の流れだと思います。

映画で見る3DCGによるリアルな表現、ポスターでは立体感あふれるデザインなどがあります。それらはデジタル技法の進化によるものだと思います。

では実際に指輪のポスターのデザインを作ってみましょう。

まず最初に、デザインをする場合、実際の指輪があり、その商品を撮影をして加工する方法と、実際の商品がない場合があります。

今回は後者の商品がない場合、その画像を3DCGを駆使して作ってみたいと思います。

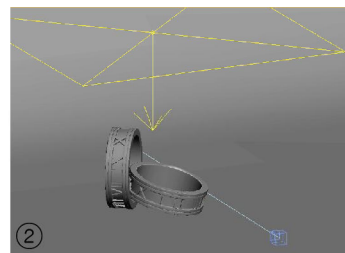
- 【1】初めに指輪のオブジェクトをモデリングしていきます。モデリングにはいろいろな方法があります。円形から作る方法、スプライン(※1)で作る方法、私はポリゴン(※2)などを使っていく方法がやりやすいと思っています。(画像①)

※1=曲線の表現手法の一つ ※2=立体的な物体の局面を表現する際に用いられる多角形のこと

- 【2】指輪のモデリングができれば、それをレンダリングするために照明(ライティング)、カメラワークなどを設定します。当然オブジェクトには質感などを設定する必要があります。(画像②)

- 【3】そして準備ができればレンダリングをします。画像③がレンダリング後の画像です。

- 【4】このままでは暗かったり、もう少し明るさなどを加えたいので、フォトショップでレタッチします。「明るさ・コントラスト」などや、光る部分、濃い部分を演出したりします。そして画像④がレタッチを完了した最終画像です。



今回はたまたま簡単なもので表現しましたが、水中の表現、空想の空間、創造的なモノを考え、モデリングしていけば多種多様なモノを作ることができます。

時代は「デジタルデジタル」と思いますがアナログがあつてのものだと思います。しかしデジタルが強く支持されているのも現実です。デジタルの良さは何も3DCGだけではなく、いろいろなものがあります。時代の流れに合った方法、企画、表現などいろんなものが昔から今、過去から未来へと。ひとつのものにとらわれるのではなく、アナログ・デジタル、広い視野でみれば、流行だったり情報の流れも、また楽しいものになるのかもしれない。

私はデジタル作品が好きなので、これからも楽しみながら作っていききたいと思います。

青年部企画 Designer's Bar OIS

やってきましたDesigner's Bar!! 前回から2か月、過ぎるのが早く、気づけば第2回目です。伝達式(9月26日)直後の10月9日の開催ということもあり、今年の検定試験合格者や、先輩諸氏もたくさん来店いただきました。合計37人! 本当に嬉しいことです。

主催の青年部会で「今度この日に開催しましょう」と決め、その日に向けて、みんな企画・準備します。前回の反省点はもちろん、テーマを考えたり、「どうしたら楽しいものを提供できるのだろうか?」な



参加者はいろいろ

第2回 1回目を上回る賑わい 会場はひと・ひと・ひと!!

どなど。

Designer's Barが開催される日は、この世のものとは思えないほど緊張しています。「何人ぐらい来てくれるだろうか…」「みんな馴染んでくれるだろうか…」期待と不安が混じり合い、緊張はMAXに達します。

でも、始まってしまえば、そうでもないんですよ、これが?!

老若男女、年の差や性別を超えて会話が花が咲きます。プライベートの話、仕事の話、ジャンルを問わず雑談(ざっぱく)な会話が乱れ飛びます。「オレ、人見知りするから…」そんなことには関係なく、賑やかです。

初めての方、慣れていない方関係なく、その場で輪・和が生まれ溶け込んでいく光景は本当に嬉しいものです。誰々だから、などという気遣いは関係なく、みんなが平等に入れる空間です。そう思ったら、さっきまで考えていた不安は消え去ります。

この年齢で言うのも可笑しいのかもしれませんが、そういうのを見ると和みます。この協会に入ってよかった~この企画やっついて心底よかった~、って。

いろんな人が出会い、いろんな人が繋がっていき、何気ない場所、何気ない会話、



世話役の青年部・森さん(左)と園田さん(右)

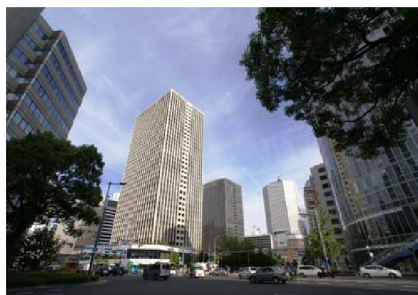
いろんなものがあります。それでも、人が集まってくれば、それだけで大きいものになるのです。

好きなことをトコトン話せます。大小関係なく、悩んでることを誰かに聞いてもらえるっていうのも本当に大事なことです。そして、その場で少しでも繋がりが輪が大きくなっていけば、Designer's Barも大成功であり、それ自身が、この企画の意図するところなんだろうなあと思うと、これからもDesigner's Barをやっていききたいと思います。ぜひぜひ皆さん! 参加してください!

(記・園田 寛明)



建築・インテリアの写真



④元画像

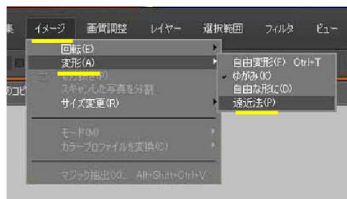
＜外観の部＞ 建物は垂直に

地上の建築物は、ごく一部を除き地面に対し垂直に建っています。しかし、高い建物を撮りますと、当然、見上げますので①のように先細りに写ります。これでもいい、という人は以後、読む必要はないのですが続けます。

これを、なるべく垂直に近い状態で撮る方法は[A]なるべく長焦点レンズで撮る(②)、[B]長焦点レンズがない場合は、タテ位置で撮影し、下部をトリミングする(③)、作例はありませんが高位置から撮る、はっきり言って、これ以外に方法はありません。つまり、長焦点レンズを使うにしろ、広角でタテ位置に撮るにしろ、被写体の建物からの距離を長く取る必要がありますが、撮りたい建物が広場にポツンと建っているわけではありませんので、当然広角～超広角レンズに頼ることになり、④のような写真になるわけです。



⑤レイヤー複製⇒新規名称⇒OK



⑥イメージ⇒変形⇒遠近法



⑦→方向に引っ張る(左右同時に広がる)



⑧遠近法操作完了

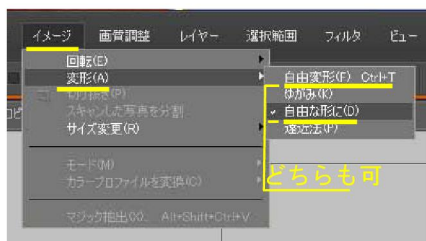
その写真を、プロが建築写真専門のビューカメラで撮ったように仕上げる方法を説明しましょう。画像加工ソフトを使用しますが、今回はphotoshop elements 6.0で行います。

⑤レイヤー複製 ⇒ 新規名称「背景のコピー」はそのままでOK。⑥イメージ ⇒ 変形 ⇒ 遠近法 で、⑦の要領で、建物が垂直になるまで上部を広げますと⑧になります。お気づきのとおりタテ対ヨコの比率が狂ってしまっています。

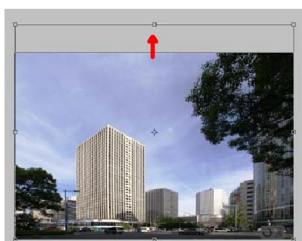
再度photoshopで、⑨イメージ ⇒ 自由な形に(自由変形でもいい)で、⑩対比が正常になるまで引き上げますと⑪完成です。ごく簡単な操作で立派な建築写真に変身しますので、ぜひ試してみてください。

一つ注意したいのは、遠近法操作で左右が、高さ調節で空が切れますので、撮影時に十分余裕を持たせておくことです。

※編集部注：photoshop elements 6.0 は13,000円ほどで購入できます。



⑨イメージ⇒変形⇒自由な形に



⑩↑方向に引っ張る



⑪完 成

W見学記

ENDO 遠藤照明 & アイカ工業 AICA

日ごろの仕事上の関係をたよりに依頼していました(株)遠藤照明とアイカ工業(株)のショールーム見学会が、11月7日に実現しました。この見学会の案内には「W見学会」と表現されていましたが、それは、両社とも中央区の本町で、その距離が近い位置にあるため、同日の見学となったことを意味しています。

先に訪れた遠藤照明は、家具部門でOISの賛助会員になっていただいておりますが、見学の主な対象は同社の本命の「照明」で、なかでも、最近力を注いでおられるLEDが主体でした。

今や、LEDは省エネ、エコの救世主としてもはやされていますが、現在使用の照明をLEDに変更しても、初期投資費用を考えると、なかなか元を取り戻すのは難しいという話、さらに、



(株)遠藤照明/LEDのレンズと反射鏡の説明

LEDはUV(紫外線)の発生が少なく物品の退色防止効果があるため、衣料品店舗はいうに及ばず、最近では、美術館の照明にも利用されていますが、蛍光染料を使用した白いキャッターシャツなどは、ごく普通の蛍光灯照明より白が冴えない欠点があるなど、LEDの長所・短所を教えていただきました。

その後、5階から1階までのインテリアゾーンでは椅子を中心としたアイテムを拝見し、次なる見学先、アイカへ徒歩で移動しました。

アイカでは、わずか15人という参加者にもかかわらず3班に分け、それぞれに担当者から詳しく説明を受けました。同社の本命の一つ「メラミン化粧板」の新柄・新色などの進化、「ジョリパット」の説明も詳しく聞いたあと研修室に集まり、それぞれの分野から新商品の説明を受けました。中でも興味深かったのは、自分の好きな写真や絵柄で1枚からオーダーできるオリジナルデジタルプリントメラミン化粧板「グラフィカ」で、個性的なインテリア作りに役立つ印象を受けました。

約4時間にわたる有意義なW見学会は終了しましたが、今回は若い会員の参加もあり、見学会をセッティングした所期の目的を果たしたように思いました。

なお遠藤照明から、見学会当日の説明に使用したLEDに関する詳しい資料をPOWER POINTで頂戴していますので、興味のある方は事務局にお問い合わせください。



アイカ工業(株)/ジョリパットの説明